平成二十八年三月投句　【太宰府（曲水の宴）】

水底に光を揺らし春の風
日時計の三時のところ下萠ゆる　勝利
むき出しの櫓の太し春炬燵

曲水の盃に遅速のありにけり
屈まねば通れぬ梅の一樹かな　佳与子
くぐる度梅の下枝に触れてをり

曲水に沿うて敷かれし緋毛氈
曲水の宴に二人の衛士も立ち　節子
図書館へミモザの花を見るコース

筑波嶺に木の芽風吹く頃に会ひ
命日もはや夕暮れて春炬燵　光子
手に持つは宰府の梅や巫女の舞

曲水の盃引き寄せる竹を手に
白拍子梅がくれなる舞台かな　真理子
雑木山ささやき交わす木の芽風

金泥の絵より始まる雛展
雛展津波に耐えし雛も置き　由紀子
見上ぐること多き都心の陽炎へる